



(横岸澤英二氏 昭和51年卒)

夕陽

函館市支部会報

発行所
夕陽会 函館市支部
函館市立的場中学校
印刷 (株)島本印刷



新「函館市」から「夕陽の波」を

夕陽会函館市支部 副支部長 伊藤 皓嗣

(昭和四十四年卒)

昨年十二月一日「海」を共通の生活基盤とする、函館市、戸井町、恵山町、樫法華村、南茅部町が合併し、国際水産・海洋都市を目指す新「函館市」が誕生しました。

我が夕陽会も、大正七年三月に設立された組織であり、函館市制の歴史を越える八十六年という伝統をもっています。合併した四町村の夕陽会員の方々を四月から函館支部の仲間に加え、パワーアップした「夕陽の波」を、全道、全国で活躍する会員の皆様にお届けしたいと考えています。

我が母校は、全国の国立大学の法人化により、開校以来九十年という節目の年に、「国立大学法人北海道教育大学函館校」と名称を変えました。時代の変遷とともに校名は異なってきましたが、教育界を中心に次代を担う有為な人材育成に果たしてきた役割と歴史は、夕陽会員の誇りでもあります。

しかし、五分校体制の見直しを検討してきた北海道教育大学は、昨年十月、再編基本計画を発表しました。函館校は、教員免許取得を義務づけない新課程の「人間地域科学課程」に転換することです。新課程は人間科学と地域科学の要素を取り入れ、①人間発達②国際文化・協力③情報科学④地域創成⑤環境科学の五専攻となるようですが、専攻や選択によっては、教員免許を取得可能と伝えられています。

今回の計画案そのものの遠因とも言われる、昭和六十三年に導入された総合科学課程（ゼロ免課程）の発足により、卒業生は教員だけではなく、民間企業や官庁にも就職するようになりました。元分校主事・伊藤貫一先生は、夕陽会報一〇〇号発刊記念号の中で、「教職に限らず如何なる職業に従事するにしても、開校当時の教育理念に基づく旺盛な開拓精神をもって、国家社会のために貢献し得る人材の育成を望む。」と述べ、教育界はもちろん、広く各界での夕陽会員の活躍を予見しています。

平成十八年度から、母校は現在の枠組みと大きく変わることになり、夕陽会にとっても、新しい分野の同窓生をどう組織化していくかが課題となります。さまざまな変革の時期にあたり、「土地墾闢・人民蕃殖」の教育理念のもと、「創造し行動する夕陽会」函館支部のために、皆様の一層のご支援・ご協力をお願いいたします。



朝日を浴びて

夕陽会本部総務 池上 信 廣
(昭和三十七年卒)

新年の正月テレビ番組を楽しんでいると、『朝、鶏がコケコッコーと鳴くのは、雄ん鳥・雌ん鳥のどちらでしょう』という、酉年にふさわしいクイズ問題が話題されていました。毎朝、あちこちの家々から雄鶏の鳴き声を耳にして育った私達の年代では、実に他愛のない問題でしたが、今の若い人達や子どもたちにはさぞや難題だろうなと感じたものでした。と同時に、雄鶏の声で目覚めた子どもの頃の『朝』の情景が連想されてきました。馬の蹄の音、D51型蒸気機関車の音、豆腐売りのラッパの音、台所からの庖丁や鍋の音など、豊かな生活音は、まどろみの中で言いたげのない心地よさを生み、朝を告げる軽快な響きを伴っていました。

少子高齢化社会が進展するにつれ、子どもたちの健やかな成長を願う声が高まってきました。しかし、子どもを取り巻く養育環境・社会環境は厳しく、朝に弱い子どもたちの増加が気にかかります。目覚めは脳の働きが作用しているという科学的なデータを紹介してのテレビ・新聞の報道は、この問題の深さと関心の高さをうかがわせています。寝つきが悪く、夜泣きのひどい睡眠障害は、脳幹にあるセロトニンという神経系が刺激されて覚醒する睡眠リズムが、創り出されていないために起こるものであること。テレビゲームのやり過ぎは、脳の前頭連合野が働かなくなり、集中力を養ったり、感情の調節をしたり、やる気を起こさせたりする機能を消失するゲーム脳になること。生体内の朝・昼・夜をコントロールする体内時計は、朝働くDNAが鍵を握っていること等が明らかにされてきています。つまりは、目覚めのよい朝を感じ、規則正しい生活をして、めりはりのある生活リズムを習得することが肝要であり、そのためには、十分な睡眠と寝かしつけるしつけが必要だということを提起しているのです。遅寝遅起きの子は、朝、起こされると寝ているときの低体温のままなので目覚めが悪く、ぐずり・不機嫌な感情を表出させます。これに、寝不足や朝食を摂らないことも重なって、倦怠感・疲労感を訴えるようになります。夜更かしが生活リズムを崩し、遅刻から不登校、ひきこもりの一因となるケースが多くなっています。(少年事件の多発の遠因としては考え過ぎ?)

原始の時代から大切にしてきた太陽の動きに合わせた生活で朝日を浴び、体内時計のタイマーを動かして、健康で情緒あふれる一日をスタートさせたいものです。

受賞者ご芳名一覧 (敬称略・順不同)

高 齢 者 叙 勲	瑞宝双光章	加 藤 彬	(昭和11年卒)
秋 の 叙 勲	瑞宝双光章	加 船 矢 美 幸	(昭和29年卒)
秋 の 褒 章	藍 綬 褒 章	清 野 弘 子	(昭和39年卒)
文 部 科 学 大 臣 表 彰		斎 藤 幸 子	(昭和32年卒)
函 館 市 文 化 賞		千 藤 葉 喜 彦	(昭和34年卒)
北 海 道 教 育 功 績 者 表 彰		石 戸 大 機	(昭和42年卒)
渡 島 管 内 教 育 実 践 表 彰		鈴 木 秀 明	(昭和46年卒)

函館市立学校教職員表彰

高 下 慶 雄	(昭和41年卒)	坂 口 一 弘	(昭和41年卒)
中 村 泰 嗣	(昭和42年卒)	山 本 國 光	(昭和41年卒)
干 葉 達 夫	(昭和41年卒)	近 藤 健	(昭和41年卒)
高 橋 豊	(昭和41年卒)	長 谷 川 良 任	(昭和41年卒)
齋 藤 孝	(昭和41年卒)	上 田 和 子	(昭和41年卒)
南 條 弘 道	(昭和41年卒)	阿 部 春 樹	(昭和42年卒)
山 田 信 三 郎	(昭和41年卒)	渡 辺 淳	(昭和41年卒)
寺 岡 昭 治	(昭和42年卒)	伊 藤 登 喜 男	(昭和42年卒)
田 部 寛 晴	(昭和42年卒)	澤 口 武 夫	(昭和41年卒)
長 谷 川 矩 男	(昭和41年卒)		

受賞おめでとうございます

よるじびの言葉

受章で知ったこと

加藤 彬
(昭和十一年卒)

この度、はからずも叙勲の栄に浴し、瑞宝双光章の勲記、勲章の伝達を感激のうちに戴きました。叙勲は「社会の様々な分野で顕著な功績をあげた者」又は、「公共的職務に長年従事成績を上げた者」に表彰する場合、授与するものとなっています。◆春秋以外の叙勲について。春秋だけでなく、毎月一日に叙勲されるものもある。高年齢者叙勲といわれているもので、昭和四十八年の叙勲で、対象者に高齢者が多いことに気づいた総理大臣田中角栄氏の発言がもとになって、八十八歳になった翌月の一日を発令日としているので、米寿の叙勲ともいわれ、高齢者が対象のため、天皇陛下への拝謁は行われていない。

◆勲章の種類と特色。勲章の種類、最初に設けられた旭日章は男性用、それに対して明治二十一年に女性用の宝冠章が設けられ、同時にできた瑞宝章は当初は男性用でしたが、大正八年に女性にも適用されることになって、男女それぞれに授与される勲章の種類は同等になった。

◆菊花章。我が国の最高位の勲章で、イギリス、デンマーク、スエーデンなどにも同様なものがあり、大勲位菊花頸飾と大勲位菊花章の二種類で、最近はこの二人の方が受けている。

◆旭日章。我が国最初の勲章であり、平成十五年の栄典制度改革により、ハランクが六ランクになり、数字表記をなくし、大綬章・重光章・中綬章・小綬章・双光章・単光章という名称に変わった。

◆宝冠章。制度改革により、大綬章・牡丹章・白蝶章・藤花章・杏葉章・波光章の六種の名称に変わり、現在は、外国人に対する儀礼、叙勲等に限り運用され、そのデザインに多くの真珠が用いられ、豪華なものです。

◆瑞宝章。改革により大綬章・重光章・中綬章・小綬章・双光章・単光章の六段階になり、デザインは八稜鏡を十六の連珠がめぐって、光線が配され美しいものです。

◆文化勲章。文化の発展に関し、勲績卓絶なる者に授与される学一級の勲章で、昭和十二年二月十八日、当時の紀元節に勅令で制定されました。十一月三日の文化の日に発令されます。

船矢 美幸
(昭和二十九年卒)

国民参加の司法制度

調停委員として二十七年の歳月を生きて

平成十六年秋の叙勲で調停功勞として瑞宝双光章を拝受し身の引き締まる思いでございますが、夕陽会会長様、支部長様より祝電を頂戴し嬉しゅうございました。感謝致します。

「調停委員は何年しているのですか？」

「どの様なやり方ですのですか？」等々、受章を機に質問されますので、立法、行政、司法の三本柱である司法制度が今、大きな変革の時期を迎えている事と私の関与して来た「調停」について一言申し上げたいと存じます。

調停制度は大正十一年の発足以来八十年の実績を持ち、日本の国民性に適合した民事、家事紛争解決手続きとして訴訟と並んで重要な役割を担って来た国民の司法参加の制度です。

訴訟と違い、勝つか負けるか、白か黒かでなく、紛争の当事者双方が調停の場で話し合い、互譲の精神で実情に即した解決をしますが、調停委員は支援者に過ぎず、委員の価値観、道徳観を押しつける事は禁じられていますし、プライヴァシーを守る事を義務としています。主役は当事者で自主判断自主解決への道程として、対立感情の激しい当事者双方から信頼され、和やかな雰囲気の中で本音で語り合う対話が出来ることが解決へのキイポイントとなります。

交通事故、金銭トラブル、遺産相続、離婚に伴う親権や養育費等の難問が浮上しますが、調停主任の裁判官、書記官、調査官の連携と評議を重ねて進行しますが、主役の当事者が調停成立でなく訴訟を希望するケースもあります。

今、司法制度改革として注目されている一つに、人事訴訟の家庭裁判所移管があり、従来地方裁判所でした扱わなかった人事訴訟を家庭裁判所で行う事により裁判のスピード化と併せ、調停委員ではない「参与員」として民間人が登用される事になりました。今一つは話題の裁判員制度で平成二十一年から刑事裁判に一般人が参加する事になりました。

殺人や強盗などの重大事件が対象で、市民感覚が反映されて司法に対する国民の信頼が高まる事が期待されています。

少子高齢化、国際化、情報化の時代となり、合理的精神は必要ですが、相手の人権を尊重する人間としての情感、「相手の話をよく聴き、受容し、共感する。」心の優しさ、思いやりと感謝の心が育つ教育が、家庭、学校、社会で何よりも大事な事だと思います。昭和五十四年に最高裁判所より辞令を拝命して以来、「愛する行為」が幸福の創造と思うからです。



「仲間と共に」

清野 弘子

(昭和三十九年卒)

このたびは思いもかけず、平成十六年秋に藍綬褒章受章の栄に浴しまして、夕陽会はじめ皆様から多数のご祝詞をいただき、誠にありがとうございました。受章の内示を頂きました時は、この私が、と仰天いたしました。そして函館地方・家庭裁判所初まつて以来の三人同時受章と伺いまして、肩の荷は軽く、喜びは倍となりました。

十一月十五日、夜来の雨が降り続く中、最高裁判所に赴き、長官より褒章の記、褒章の伝達を受けました。仲間三人の心強さで緊張も解れ、続く立食パーティではシャンパンで喉をうるおし、和やかに過ごすことができました。

午後からはバスに分乗し、皇居へ参内いたしました。広い廊下を「春秋の間」へと案内されました。両壁面には、琵琶湖畔の春霞の中に立つ松「清光」と秋の霧の中の北山杉「寂光」が見事な綴れ織りで描かれておりました。

何よりも目を奪われたのは杉山寧氏作の「雲」を大胆にデザインした薄紫の縦緞でした。草履も埋まるかと思えるほどの柔らかさでした。

やがて、天皇陛下のお出ましとなり、壇上よりお言葉を頂き、身近に拝謁の栄を賜りました。車椅子の大鵬親方には特に懇ろのご様子でした。

雨上がりの皇居前で、記念撮影の後、再び裁判所に戻って参りました。

顧みますと、私が母校で学んだ四年間は本当に充実しておりました。入学時は六十年安保闘争で休講続きでした。嫌が上にも社会現象に目を向けさせられ、自らの意志で勉強しなければならない時代でした。特に教育、家政学を学んだことが現在の仕事に大変役立っております。人間の出生から死まで、家庭で起こりうるあらゆる問題を提起され、私自身が人生を考え、導かれてきたと言っても過言ではございません。

調停委員としてそれぞれが二十余年、多数の事件と当事者にお会いして参りました。その中には難しい事件も多々あり、お互いケース研究を続けて参りました。

これからも、この栄誉に恥じることなく、切磋琢磨して、調停に尽力したいものと考えております。

どうぞ皆様、今後共よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。



文部科学大臣表彰

斎藤 幸子

(昭和三十二年卒)

平成十六年度文部科学大臣表彰、視聴覚教育功労者の栄に浴し、身の引き締まる思いで各地からの功労者三十九名共々表彰式に臨みました。表彰式会場となった霞ヶ関ビルは、現在では珍しくもない高層ビルですが、完成時の華々しいデビューは新鮮な驚きだったことを覚えています。園長初年度の全国園長会会場となり研修に参加した折以来、この度は三十三階が表彰式会場でした。真に大袈裟ですが、天にも昇る気持とはこの事でしょうか。(東海大学校友会館「阿蘇の間」)

表彰に当たり、夕陽会様初め皆様からお祝いのことばを頂きました。

昨年の八月、台風一過の翌々日、三十五年程前に開催した第二十二回放送教育研究大会・函館大会事務局(五稜中学校)と研究を担当されていた、西谷富士雄先生の陰に小さく載っていた記事に目を通されたとの事、慌てて記事を探した次第です。感慨無量でした。皆様方のご厚情に衷心より感謝をしてお礼を申し上げます。

私は、昭和三十四年函館市立函館幼稚園に奉職、放送教材の魅力に触れ、保育の豊かさを願い、子どもたちの「感じる心」に働きかけ、ラジオ聴取、テレビ視聴の心地よさを実感させていきたいと実践してきました。研究については、小学校、中学校、高校の先生方の研究に取り組み姿勢を機会ある毎に学ばせて頂きました。

道南地区幼稚園保育所放送教育研究会が揺るぎなく存続してきたことは、他校種との研究交流が出来たことと、国立、公立、私立幼稚園、保育所が一堂に会し、研修を継続していることでしょう。ニュー・メディアの取り組みにも意欲的です。

近年では、平成十一年の全道大会(函館大会)、平成十四年の全国大会(大阪大会)への参加、平成十六年度開催、道南地区幼稚園保育所放送教育研究大会(函館大谷短期大学附属大野幼稚園)の取り組みが活力を与えてくれました。

今日あるのは、切磋琢磨し合う環境に恵まれたこと、「幼稚園は単なる子守りの場にあらず、人間教育の場である。」こう明言された戸村園長の元で、岡田、田井中お二人の大先輩、後輩の守田、岩井、毛利諸先生方と机を同じくして励みました。その上、歴代の教育長様、指導室の先生方より親しくご指導を賜りました。

皆々様のお力添えにより、大きな幸せを頂きました。ありがとうございます。



書家の修行

千葉 軒岳

(昭和三十四年卒)

画家はどうか知りませんが、書家になるには学書と言う、書の教養と実技をやらねばなりません。私千葉軒岳は、ちよつと口はばったいんですが、学書歴凡そ五十五年、キッチリやりました。今は六十七歳ですが。

「國民學校」に入学した時から、オッチョコチョイの、ソソッカシイの、と周りから言われながらも、みみずのしつぽを、アッチにまげたり、コッチにまげたり、特に後年、数学や英語の時間は文字のデッサン(落書き)ばかり、高等学校を終えるまで、書の「興味関心」の分野に専念したのは、既に素質が有ったと見るべきでしょうか。

大学時代の恩師太田鶴堂先生は、オン寿六十六歳の時に学書五十年を記念して個展を催されておりますから、九十年のご生涯から換算して学書七十五年と言うことになりました。

入学ほぼ一年経ちまして、学生に「鶴□」とか「□堂」とか、自分の名前を分け与えた後、「千葉、お前の近くに何か山か川のようなものはないか」「千軒岳と言う山ならありますが」、「軒岳」と言う号はそれで決まり。後で知ったことだが、先生は二年制の学生をあまり相手にしないとのこと。そんなことも知らず、相撲の親方から貰ったような名前でも書家は書家。カラッポノヤミと叱られていた「川遊び」が、学書では「清遊」という分野に入り自慢出来る事も知りました。「英気を養う」分野では、「飲めないヤツは上手くならん」と言われ、顔がスグ赤くなるから二十点、未だ延々修行中。

「千葉君、五稜郭公園を散歩しながら空カンを拾ってるよ。」恩師の晩年である。学書にも「徳」と言う課程があったのか。「書は人なり」、どこかで聴いた言葉、でも、もうムリムリ。だってボクは生徒指導や野球など「アクタレ」と戯れて四十年、本当の事を言うと言書はこれから。苦しい「態度」と「実技」はナンモやってこなかったんだから。

「…コラ千葉ア オマエ ソロソロ コッチニ キテハ ドージャ…」
『も、もう少し、こちらの方に居させて、下さーい。せめて「英気」の分野だけでも、修行してからに、しまーす。』



ありがとうございました

石戸 大機

(昭和四十二年卒)

平成十六年十二月十四日、北海道教育功績者表彰という正に身に余る栄に浴しました。札幌のホテル・ライフオートにおいて表彰状と記念品を頂戴いたしました。改めてその責任の重さに身の引き締まる思いを感じておりました。また、その前日には札幌市を中心とした夕陽会指導主事等会の皆さんが祝賀会を開催してくださり、顧問の皆様や懐かしい同期の面々にお会いする機会を得ることができました。この会には、ご多忙のところをわざわざ夕陽会本部の川島会長さんと藤川幹事長までご出席くださり、同窓の皆様のご温かさに感激をしておりました。翌日の表彰式を終えての帰路、ほっとした気持ちに包まれながら、これまで数々のご指導とご支援をもとに私を導いて下さった多くの方々のお顔が脳裏に浮かんでまいりました。

年が明けて一月二十一日、函館市の小・中校長会の皆さんがこの度の受彰祝賀会を開催して下さいました。さらに翌日には深堀中学校の教職員による祝賀会も開催され、私ごとがこれほど祝福していただいていたいいものだろうかと思縮するほどでありました。皆様の数々のご配慮にただただ心より感謝申し上げるばかりです。

この三月末をもって定年退職となる私ですが、年月の流れの速さにただただ驚くばかりです。特に、最後のこの一年間はまるでハイスピード再生でビデオテープを見ているようです。つい三・四年前までは、退職を目前にされた先輩校長さんにとっても羨ましく思えたのですが、いざ自分がその時を迎えてみると何やら複雑な心境がこみ上げてきます。それらは、安堵感や達成感であったり、解放感や孤独感であったり、不安感や虚脱感のようなものでもあるようです。それだけに、この三十八年間の教職生活は、自分の人生そのものであったことを実感しています。

最近ふつと、四月からの自分の生活を考えることがあります。こんな大きな賞を頂戴しただけに、どのように生きることでお返しができるのかを考えるのです。しかし、考えるほどに気負いばかりが先行してしまい、それだけで疲れてしまうほどです。結局は、何よりも健康で明るく、そして仲良く、背筋を伸ばして生きていくことに自分らしさを見つけています。元来、不器用・無愛想・力不足の私ですので、ときどきは自分の姿を鏡に映して「シャキッとしてるかい?」と声を掛けながら、二回目の暦をゆつたりと楽しむ日々を夢見ています。ありがとうございました。

新 た な る 飛 躍 を

今年度をふり返って



函館市立東小学校

山下 真 慶

三年半ほどの期限付き時代を経て、初任者として子ども達とふれあった今年度初めての修学旅行や運動会などの行事をさしおいて「教師になれて良かった!」と実感したのは、校内研修での国語の授業でした。

授業としての善し悪しはさておきまして、子ども達のやる気をハッキリと感ずることができたことが私にとって何よりの財産となりました。

よく「教師が苦労した分だけ子どもから返ってくるものは大きい。」と耳にしておりましたが、今年の取り組みによって、準備と熱意の大切さを再認識することができました。

日頃、忙しさを言い訳にして怠けてしまう自分。悩んでばかりで後ろ向きな考えに陥る自分。そんな自分に喝を入れ、覚悟を決めて突き進むことが私の教師として生きる道だと考えます。これまでお世話になってきた先輩方の助言や、様々な経験を経て今の自分がいえることを忘れずに、今後も謙虚に学び、日々精進していこうと思います。

実践に生かすために



函館市立中央小学校

本間 達 也

先日の森少年自然の家における宿泊研修をもって、初任者研修の全日程を終了しました。最後に、「初任者研修及び一年間の実践を振り返って」という協議を行ない、改めてこの一年間をじっくり振り返ることができました。そして、「研修及び実践」ということについて、研修で学んだことを実践に生かすために、という視点から自分なりに考えてみました。

今年は本当に様々な研修を受けさせて頂きました。それら全てが己の資質を高め、子どもに還元するためであると思います。しかしながら、学校に戻ったその日から即座に実践に生かすことができるかと言えば決してそうではありません。なぜなら、研修で直接的に得ることができるのは理論や方法、実践例や体験であって、明日すぐ使える授業入門的なものではないからです。実践へと転化させるためには、自分の中でどれだけ反芻し、糧とし、資質として取り込んでいけるかが肝要ではないかと考えます。

今後も研修だけでなく、諸先輩方や日々の学校生活の中からたくさん学ばせて頂きたいと思っています。そこで学びっぱなしで留まることなく、自分の中でしっかりと反芻して、日々の実践へつなげていけるように努力したいと思っています。

スタートライン



函館市立港中学校

梶 健 太

四月一日から函館市立港中学校に勤務して、はや九ヶ月。最初は、自分が教員でいいのだろうか、という不安があったものの、今は自分がやるしかない!という気持ちで仕事に臨んでいます。毎日あつという間に過ぎ去っていきませんが、大変充実した日々を送っています。

念願であった教員になることができた今、生徒にいろいろなことを教え、伝えていきたいです。上手く伝えることができず、歯がゆい思いをすることもしばしばありますが、ひとつでも多くのことを伝えていきたいと思っています。「若さ」を武器に泥臭くやっていきます。

職場では、夕陽会の諸先輩方に何かと御指導していただき、一つひとつ自分のものにしていきます。これからも、どうぞよろしくお願い致します。



日々の授業を大切に



函館市立湯川中学校

横山友紀

「教師の生命は日々の授業にある。」このことが、四月から教壇に立つている中で実感していることです。

国語の大家大村はさんの「教師はやはり学力をつける人、学力を養う技術を持った人です。いい人だけでは、職業として成り立ちません。」という言葉の意味が実感として理解することができるようになりました。目の前にいる子どもたちにどのような力をつけたいか、何を伝えていきたいか、というおもしろいをつなげていくためには、日々の授業や生活の積み重ねがいかに重要であるか常に心に刻んでいくことが必要であると思います。

毎日表情や姿も様々である子どもたちとかわる中で、その背後にあるおもしろいにくみとることができるか、そしてまた一人一人のつまずきや支援を必要とする点を明らかにし、適切に指導することができると、ということが私にとって永遠の課題です。経験豊富な諸先生方から多くの学びの機会をいただいていることに感謝の気持ちを忘れずに、子どもたちの反応を見て内省し、自らのあるべき姿や対応のあり方について、追求していく覚悟です。

初心を忘れず



北海道教育大学附属函館幼稚園

中山利広

十六年の四月から幼稚園教諭として勤務させていただくことになりました。四歳児クラスのパワフルな子どもたちと一緒に毎日を過ごしています。子どもたちと遊ぶことだけが仕事と思われがちですが、遊びを通して子どもたちの学びを保障していくために、悪戦苦闘の日々です。子どもたちが帰った後も数多くの仕事にあたり、とまどいの連続です。忙しさや自分の要領の悪さを言い訳に、子どもたちの見取りを疎かにしたり、子ども理解に前向きに努めることができなかったりと反省することが多く、「自分は幼稚園教諭になりたい。」という初心を忘れてしまうこともありましたが、そんな自分を受け止め、しっかりと振り返らせてくれたのは、厳しくも温かくもある先輩方のご指導のおかげでした。

幼児教育の現場は今、幼少の連携や総合施設への動きをはじめ、多くの問題や課題に直面しています。子どもたちと一緒に自分自身も成長していこうとする志を忘れず、失敗も反省もたくさん経験しながら、数少ない男性保育者として、謙虚な姿勢を忘れずに精進していきたいと思っています。

母校で勤務するにあたり



北海道教育大学函館校

石井宏一

縁あって、昨年四月より美術教育講座の教員として、母校の教壇に立つことになりました。

卒業して以来十四年ぶり、しかもかつて私自身が学んだ研究室での勤務ということ、また、赴任早々いきなり国立大学法人化や北海道教育大学全体の再編という激流の中に身をおくことになってしまったなどのために、これまでわき目も振らずただ我武者羅に突っ走ってきたわけですが、前任でありかつ指導教官でもあった今井憲一先生をはじめ同僚の諸先生方、そして事務職員の方々の御支援、激励のおかげで、なんとか何事もなく職務に従事することができました。赴任から一年近くたち、落ち着きを取り戻してきた今、なによりも学生諸君の将来へ向けての目標に込めるべく、身を引き締めて大学における教育・研究に当たっていきいたいと考えています。

平成十八年四月に「人間地域科学課程」が設置されることにより、函館校はこれまでとは大きく異なる方向へその姿を変えていこうとしています。ただ、北海道教育大学のあり方がどのようなものとも、将来的に函館校がより良い方向で発展するための礎を築くことができるよう、教員として、そして同窓のひとりとして微力ながら努力していきたいと考えています。

学校紹介

函館市立弥生小学校

本校は、本道文化発祥の地函館の、当時の中心地であった西部地区に、「函館区公立小学校彌生学校」として明治十五年に開校しました。開校の前年、完成間近の校舎が工事現場からの出火で全焼するという災難に遭ったにもかかわらず、「函館の四天王」といわれた方々が巨額の浄財を投じ、わずか一年で開校にこぎつけたと伝えられています。当時の函館区民の本校開校及び子弟教育に対する並々ならぬ思いが伺われます。爾来、百二十有余の星霜を重ねて現在に至り、この間に輩出した三万五千を超える卒業生は、道内はもちろん全国各地の各界各分野で活躍しています。その愛校心と結束力は、毎年七月に欠かさず開催される同窓会や在京同窓生の集まりである「東京弥生会」の存在にも現れています。

現在の校舎は、昭和十三年十二月に完成した近世式鉄筋コンクリート造三階建てで、当時から水道やガス、電気、水洗トイレが完備されていました。二千三百人以上の児童を擁し、気品と威厳を誇った大校舎も六十五年の歳月を経て老朽化が激しく、学ぶ児童もわずか百七十名になってしまいました。しかし、歴史と伝統ここにあり、「創造、強健、協調」を教育目標として、歴代の先輩教職員の方々が心血を注いでこられた弥生教育の精神は「弥生美術館」や資料室をはじめとする校舎の隅々に、子どもたちの心に脈々と受け継がれています。

創立百二十三年目の今年度は、「思いやりの心で豊かに表現のできる子」を重点教育目標に据えて、英語活動やロシアとの交流を主とした国際理解教育、

地域に根ざした総合的な学習「やよい探検隊」などの特色ある教育活動を展開。子どもたちの生きる力や豊かな心の育成に取り組み、本校の更なる発展のために教職員が一人となつて励んでおります。

そんな弥生を支える会員を紹介します。

北島 雄三(昭和四十一年卒)

さくら級担任。昨春のご勇退後もフルタイムの再任用として弥生に残留。特殊教育に対する彼の情熱と年齢を感じさせないパワーに若者も脱帽。哲学を趣味とし、時々ギターの弾き語りをする粹人でもある。ただ今、学級担任と連携しながら本校の特別支援教育の道筋づくりに奔走中。

佐藤 俊男(昭和四十四年卒)

二年担任。子ども思いのきめ細かな指導には定評がある。自然科学に造詣が深く、植物や鳥の話は興味を引く。本校の象徴である桜を大切に、病気の桜の木を見つめる目はまるで樹木医のよう。函館山への遠足時には、植物講座を開講。自然への新たな目を開かせてくれた。スキーに親しむスポーツマンでもある。

仙石 義博(昭和五十年卒)

理科専科。港小学校より赴任。豊かな教職経験を生かし、細かな気配りをしながら教務をはじめとする多くの仕事をこなす技はさすが。理科の授業では四学年にわたる教材準備を入念に行い、子どもたちに理科の楽しさを伝えることに情熱を傾けている。補欠に入った低学年にも、おもしろい理科の話をして人気がある。

藤井 良江(昭和五十一年卒)

北昭和小学校より赴任。伝統校の校長職の重責を担い、見事にそれを果た

している。いつも笑顔で澁刺と、「弥生の子どもたちのために」と率先垂範する行動派である。夏には、髪を二つに結んで花壇の整備をする可愛らしい姿も。子どもたちに人気者で、休み時間の校長室はチェスをする子どもたちで賑わっている。

橋本恵美子(昭和五十一年卒)

三年担任。経験豊富で「知恵と技の引き出し」をたくさん持ち、相談するとの確にアドバイスをしてくれるお姉さんの存在である。図書担当で、新しい本が入るとすぐに子どもたちが読めるように尽力。学級では子どもたちの学習意欲を引き出すために自作の「漢字ビンゴ」を使うなど常に指導法の研究に努めている。

寺本 公彦(昭和六十二年卒)

六年担任。教務の中心として学級運営の牽引役を担う。学級経営・教科指導にも力量を発揮。子どもたちに父のように兄のように慕われている。多忙な身でありながら、バドミントンに情熱を燃やし、人数の少ない我が職場で団体戦のメンバーを集めて、気迫のこもった練習を続け、見事全市大会に出場を果たした。

清水布美子(平成二年卒)

四年担任。校内研修を担当し、子どもたちの学力向上や「生きる力」の育成へ目指した授業改善を精力的に推進。今年度は子どもたちと共にガゴメコンプの研究に没頭した。教室内の掲示物はセンスが溢れている。その他に小体研の仕事にも全力を尽くす毎日。そのパワーの源は何か是非知りたいところである。

村川 佳子(平成四年卒)

本校の財務省として少ない予算の中

でも的確に要望に応える。朝、職員室で鳴る電話に「弥生小学校です。」と明るく応対する声を聞くとパワーが出ると語る職員も。また、ピアノ演奏を得意とし入学式や学芸会でも大活躍。事務職以外の仕事も、笑顔で引き受けてくれる頼もしい存在である。

佐藤 充(平成五年卒)

五年担任。八雲町立落部中学校より赴任。初めての小学校勤務で日夜奮闘中。金管バンドの顧問で、運動会の入場行進の演奏をわずかな日数で見事に仕上げた。幼少から親しんだ音楽の才能を生かし、学芸会で子どもたちと一緒に演奏をしたときの楽しげな表情が心に残る。小学校教育のおもしろさを感じはじめています。

久徳 怜子(平成十四年卒)

一年担任。新卒三年目。赴任直後から経験豊かな先輩の中に入っても何ら遜色なく生き生きと仕事に打ち込んできた。熱心に教材研究も行う。担任する一年生の子供たちに「怜子先生、怜子先生」と慕われている。ピアノも得意で校歌の演奏を一手に引き受けるなど多方面で活躍中の本校のホープである。



函館市立北星小学校

○沿革概要

本校は、函館市立巴小学校と函館市立若松小学校を統合し、昭和六十三年に函館市立北星小学校として新設開校いたしました。以来、本年度末平成十七年三月をもって開校十七年、総計八百四十四名の卒業生を送り出すことになりました。

本校は学校目標に、「かしこい子」「しんせつな子」「たくましい子」を掲げております。

「かしこい子」とは、必要な情報や知識を取捨選択でき、将来を見通し自主的・主体的に物事を考えられる児童の育成をめざしています。「しんせつな子」とは、他人への思いやりと他人への共感を持つ児童を、「たくましい子」とは、自分から進んで物事に取り組める強い心と体の育成をめざしております。今年度は、さらに重点教育目標を「自ら学ぶ北星っ子」と設定し、学校目標を具現化するための研究を進め、「合いの学習」を通して児童一人一人の表現力を高める活動を推進していきます。

開校して十七年、まだ若い学校ですが、巴・若松の百年近い歴史と伝統を引き継ぎながら、また、校区に含まれております中央埠頭・万台埠頭を生かした新しい教育活動を進めながら、次の二十年、三十年と歴史を積み重ねて行ければと思います。

全校児童数、百五十二名の函館駅近隣に位置する小規模校ではありますが、児童一人一人と教職員の顔が見える教育、そして、地元町内会との強いつながりを保ちつつ、「地域に生きる学校」おらが町の学校」といえる様な学校作りを進めていきたいと思っております。

○会員紹介

安保勝順校長（昭和四十四年卒）
毎朝、校門前に立ち、子ども達と挨拶や会話を楽しみ、常に児童理解に努めます。教育への情熱深く、職員や児童からの信頼と人気は抜群です。運動

会の時には手作りのカラー石灰を作成。他にも様々な業を持っています。手打ちそば作りなどチャレンジし続ける姿勢に敬服。また、書道の達人です。

上田 陽子（昭和四十五年卒）

北星小学校のオアシスの存在。周囲を和やかに溶かす人柄が、児童のハートを捉えて離しません。難しい児童たちも、彼女の語りの前では素直な我に返ります。本校五年目にして三回目の卒業担任です。「能ある鷹は爪を隠す」とありますが、何をさせても堅実にこなす能力を併せ持つのもすごいところ。

佐藤 智（昭和五十五年卒）

本校一年目になります。現在五年生の担任をしています。温厚で誠実な人柄。また、北星小学校の便利屋といえど彼。情報機器操作から雑学まで幅広い知識を持っています。わからないこととや困ったことがあったら、佐藤先生に相談すると解決！親身になって相談に応じしてくれる頼れる存在です。歩く百科事典です。

後藤 博子（平成三年卒）

新しい物好き、文房具好きで、百円ショップもお気に入り。現在二年生の担任です。生活科や行事にはグッズを生かして取り組めます。自宅には図書室だけでなく教材室や視聴覚室まで作っているという噂。業務用コピー機も自宅に完備。PTAの広報紙も自宅でコピーできてしまうというから驚き。幸せ太りが悩み。



函館市立上湯川小学校

本校は、昭和四十五年四月湯川小学校宇賀小学校より児童を移送して、七学級児童数二百二十五名・教職員十三名で開校した。

校区は、函館市東部市街地のはずれに位置し、隣接するトラピスチヌ聖母修道院、函館空港を擁し、素晴らしい景観、自然環境に恵まれている。近年、市民の森の設備が進み、自然観察や体験に欠かせない自然林、人工林などが豊かである。さらに、動植物や昆虫など貴重な自然がよみがえっている。

昭和五十三年には、二十六学級・児童数九百八十四名・教職員三十八名の大規模校だったが、現在は、九学級・児童数二百四十名・教職員十八名と開校当時の規模に戻っている。ここ数年は毎年のように減少傾向にあるが、その中でも家庭や地域と連携しながら「自分らしさを発揮し、磨き合う子」を目指して教育活動に取り組んでいる。

橋本 紀勝校長（昭和四十二年卒）

自然を愛し、その趣味を生かしながら、逞しく心豊かな子ども達の育成のため、花壇づくりなど学校の環境整備に努める。

小鳥 二郎（昭和四十五年卒）

TT担当として、子供達の算数の力を高めるべく奮闘中。また、その豊富な知識で、各学級のお助けマンとして活躍している。

戸澤 和彦（昭和五十四年卒）

新米教頭として四月に赴任、ようやく慣れてきたところだが、雨漏りや水漏れなど古い校舎に走り回らされている。

岡野 芳恵（昭和五十六年卒）

教育相談の専門家。子供達への指導はもちろん、研修では教職員に対して講師として特別支援の講習を行っている。

鈴木 純子（昭和五十七年卒）

その明るさで、職員室を和やかにしている。書の大家らしく、学級の子供達へも言葉や文字を大切にしたい指導を行う。

中村 眞弓（昭和五十七年卒）

三十六名の一年生を相手に奮闘中である。また、図書担当として、読書活動や文集作りに力を発揮している。

松浦 学（昭和六十年卒）

休日にも返上し、スクールバンドの指導に力を注いでいる。ギターの弾き語りも素晴らしい。どんな歌でもこなす名人。学級の子供達の歌声も見事である。

石川 嘉明（昭和六十二年卒）

体育研究会の中心となって大活躍、学校でも、そのバイタリティーでみんなを引っ張っていつている。

川前 昌市（昭和六十二年卒）

生徒指導の要として、子供達の指導に力を注いでいる。また、サッカーの指導者、そしてプレーヤーとしても活躍している。

森 一夫（平成元年卒）

独特のジョークで、笑いを振りまくムードメーカー。そして子供達一人一人の身になって考えながら、共感的な指導を進めている。

秋江 玲子（平成三年卒）

優しさの中に一本芯の通った強さを秘めている。子供たちに明るく接しながら、しっかりと学級づくりを行っている。

葛西 美貴（平成三年卒）

持ち前の元気の良さで、音楽の指導にあたり続けている。手薄になりがちな職員室の中で、気軽に補欠に入りながら、全学年を見通している。



函館市立大川中学校

「Think Globally Act Locally」を考えた地球規模で、行動は足元から、が本校の教育目標です。この学校教育目標のもと生徒が夢や希望をもち、自ら学び心豊かに表現できることを目指し、日々、教職員一同一丸となって頑張っています。

本校は、昭和二十二年五月に新学区制の実施に伴い、万年橋小学校内に万年橋中学校として設置されたのが始まりです。平成九年には開校五〇周年を迎え、これを機会に二十一世紀を見据えた新しい学校づくりを進めています。この間、卒業生は一万二千余人名を数えています。今年度は生徒数二五〇名、教職員数一七名です。少ないですが、地域・保護者との連携を密にして教育に取り組んでいます。

校内研究では「新しい時代を拓く学力の育成」確かな学びをはぐくむ学習指導の確立」をテーマに研究を行い、その集大成である公開参観日も今年で六回を数えています。

ではそんな大川中の面々を紹介しましょう。

■会員紹介

佐藤 毅（昭和四十三年卒）

本校の特色ある教育活動として、リンク付け教育の廃止・ノーチャイムによる時間の自己管理、そして「地域に開かれた」公開参観日の開催があります。この公開参観日は開催があります。この公開参観日は今年で六回目になります。保護者や教育関係者の方々から広くご意見・ご批判をいただき「生徒・教師」とともに成長することを目指し、教職員一同がんばっています。

千葉 正彦（昭和四十二年卒）

懐かしさを感じる古い校舎と、穏やかで人なつこい生徒たちに囲まれて

九年間も過ごしてしまいました。昨年十二月に開かれた退職者説明会で、三十八年振りに研究室の仲間とも会うことができ、とても感激しました。夕陽会の益々の発展と、日々現場で奮闘されているみなさまのご活躍を心から願ってやみません。

猪野 幸子（昭和五十四年卒）

大川中の生徒たちの心と体のケアをして、今年で早三年が経ちました。今年は三年生の学年団で、諸先生方と三年生の進路決定のために邁進して参りました。大川中の生徒も他の学校の生徒と同じくらいやんちゃでケガなどが絶えませんが、そんな生徒と過ごせることで忙しい中にも充実した日々を過ごしています。

岩館 ござえ（昭和五十七年卒）

着任当時は校舎の老朽ぶりともあまりの忙しさにカルチャーショックを受けましたが、今ではすっかりなじんでしまいました。かつては平均年齢の高さで上位に君臨していた大川もすっかり若返り、今では自分が平均を押し上げていることにガク然とする今日この頃です。昨年からの研究担当になり、勉強させていただいています。

佐竹 聡（昭和五十八年卒）

忙しい学校ですが、生徒も落ち着いており居心地がよいのか、いつの間にか赴任して六年も経ってしまいました。上磯からの冬場の通勤は大変ですが、明るく元気のよい生徒とパワーのみなぎる教職員、そして理解ある地域の方々から日々パワーをもらいながら忙しくも充実した日々を過ごしています。

工藤 一之（昭和六十一年卒）

大川中学校に来て三年目になります。教職十九年目の折り返しの年になります。

した。それぞれの学校に長居したため、大川中でまだ三校目です。久々に三年生の学級担任となり、新鮮な気持ちと同時に改めてその大変さを実感しています。

生徒には「継続は力なり」と努力を強要する毎日ですが、自分自身でも、何事もあきらめずに粘り強く努力していきたいと思っています。

田畑 真（平成三年卒）

本校四年目になります。現在二年生の担任をしています。毎日、朗らかな生徒たちに囲まれ、あたたかい気持ちを分けてもらっています。

古い校舎なので冬はとても寒く、トイレも暗いですが、先輩の先生方や卒業生たちが築いた伝統を受け継ぎ、一層たくましく、そして優しくなれるように生徒と共に頑張っていきたいと思っています。

本吉 有麻（平成四年卒）

大川中に来て三年目です。大川中はノーチャイムなのですが、チャイムのない日々にもすっかり慣れました。すばらしい先生方に囲まれ、日々学ぶことがばかいです。仕事への姿勢、生徒への姿勢から様々な切り口、アイデアの示唆を頂いています。

職員室でも明るく楽しく過ごさせて頂いています。本当にありがたいなあと思っています。

狩野 利行（平成五年卒）

今年度本校に赴任し、一年生の担任と、部活動ではバドミントンを担当しています。学年では明るく、パワーのある先生方に囲まれ、毎日が忙しくとも楽しく有意義に過ごさせてもらっています。本年度は昨年パスした十年研を終わらすことができ、ほっとすることができました。この経験を明日に生

かして（？）がんばっていきたいと思っています。

川村 英明（平成十年卒）

初任で本校に来てから、はや三年目になりました。今年度は三年生担任、全道大会出場とうれしくも忙しい日々を送っています。元気な生徒たちを見ていると、若いっていいなあと感じるような年齢になってきました。部活動で動いても体の切れがなく、筋肉痛が遅れてでも肉體。清原を見習って肉體改造でも。最近慣れからか、だから仕事をしているところもあるの、日々、気を引き締めて自分を成長させたいと考えています。

大田 康裕（平成十五年卒）

今年度初任で本校に赴任しました。毎日が驚きと失敗の連続で、日々めまぐるしく過ぎていきます。部活動のソフトテニスで毎日子どもたちと汗を流しています。諸先輩の姿を見て、自分ももっと頑張らなくてはと感じた年でもありました。これからは子どもたちにも少しでも多くを学ばせることが出来るように日々研鑽していきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。



函館市立宇賀の浦中学校

本校は、函館市街の中でも大門地区を校区に含む、海岸に最も近い場所に位置し、校舎は若松広小路の木々などを暴風から守っています。平成五年四月一日に旭中学校と新川中学校の統合校として、旧新川中学校校舎に開校し、平成十五年十一月二十二日に開校十周年記念式典を終えた函館市で最も若い中学校です。

開校当初百三十二名の卒業生がいましたが、少子化と市街地のドーナツ化現象のために、昨年度の卒業生は五十五名となり、今年度の在籍生徒は百四十六名となっていました。

ここで、本年度本校で勤務している個性豊かな会員の(他己)紹介をします。神尾 和夫(昭和四十八年卒)

パソコン、ワープロを全く信じないアナログ主義。科学部を率い、市内のF M局がインタビュに訪れるほど見事な花壇を作ります。学校菜園の総責任者。土日も生徒を連れての野外実習。フットワークも軽く、生徒と共に頑張っています。

工藤 陽司(昭和五十二年卒)

メガネの奥からニンマリと笑いが漂う不思議な人物。姿三四郎なみのスマイル?で、周りもあっと驚くマジシャンに変身!生徒も父母も瞬く間に術中にはまる。お〇が入ると、さらに、口調もなめらか!ムードも最高!明るさ満点!ナリ

弓庭 卓(平成十四年卒)

市内一平均年齢の高い本校にとって、順位を下げる可能性のある唯一のホープ。

今年度は、初任者であったので、職場や地域などで多くのことを学びました。

来年度は、専門の保健体育を極め、学級担任としても力を発揮する?でしよう。

川村 秀靖(昭和六十二年卒)

まさに熱血教師。そのパワフルな声は校内に響き渡り、学校に活力を注入している。つねに生徒に寄り添いながら、生徒の気持ちを大切にしている。細やかな面も持ち味だ。進路や生徒会と多忙な毎日の中、スキーやカメラ等趣味や特技の幅が広く、毎日を熱く生きている。

氏家 一人(昭和六十年卒)

冷静沈着、頭脳明晰、率先垂範の三拍子揃った本校の生徒指導部の大黒柱。時々冗談を飛ばしながら進める社会の授業は、とてもわかりやすいと評判が高い。本校に赴任後、生徒指導で走り回る必要がないので、運動不足?に悩んでいる。

松岡 利夫(昭和五十六年卒)

宇賀中の縁の下力持ち。ある時は緻密な理論家。ある時は自らが率先して動くことのできる行動派。またある時はパソコンのスペシャリスト。果たしてその正体は...?〇の会が好きで影の〇〇部長であり、教育を語らせたらとまらない熱血漢でもあるのです。

以上六名の会員は、本校の二十名弱の職員の一人として、本校の生徒の教育に携わっています。母校(教育大函館)の教育制度が変化しても、私たちは同窓として、心意気の変わるはずがありません。これからも頑張っていくしますので、夕陽会員の皆さん、宜しくお願いします。



受賞祝賀会・会員懇親会



◎訃報
ご冥福をお祈りいたします

・中	・三島	・三浦	・田仲	・佐藤	・小山	・浅利	・花田	・渡辺	・富原	・山口	・服部	・蜷子	・小笠原	・市川	・川合
洋三氏	頭一氏	静男氏	忠男氏	哲也氏	政行氏	義昭氏	俊勝氏	國守氏	勝郎氏	弥一氏	安正氏	芳信氏	公助氏	五郎氏	信彦氏
昭和14年	昭和15年	昭和22年	昭和12年	昭和24年	昭和9年	昭和35年	昭和26年	昭和31年	昭和23年	昭和16年	昭和5年	昭和18年	昭和6年	昭和22年	昭和33年
5月	5月	7月	8月	8月	8月	8月	9月	9月	10月	10月	11月	12月	12月	12月	1月
逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去	逝去

平成16年度
前納会員(順不同)

・長谷川	・寺岡	・山岸	・小林	・松本	・坂口	・近藤	・干場	・齊藤	・渡辺	・澤口	・山本	・南條	・高下	・田部	・伊藤	・山根	・市井	・保田	・島倉	・上田	・田野中
矩男氏	治一氏	秀一氏	征八氏	弘一氏	健弘氏	達夫氏	孝夫氏	淳孝氏	武夫氏	國光氏	弘道氏	慶雄氏	寛晴氏	登喜男氏	信三郎氏	孝悦氏	弥寿弘氏	敦和氏	尚子氏	尚子氏	尚子氏
(昭和41年卒)	(昭和42年卒)	(昭和44年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和42年卒)	(昭和41年卒)	(昭和38年卒)	(昭和42年卒)	(昭和42年卒)	(昭和41年卒)	(昭和41年卒)	(昭和50年卒)

平成十六年度
夕陽会函館市支部
会務報告

夕陽会函館市支部事務局

平成16年 4月1日(木)	17日(土)	5月7日(金)	13日(木)	25日(火)	25日(火)	25日(火)	27日(木)	6月19日(土)	8月17日(火)	21日(土)	9月1日(水)	2日(木)	25日(土)	27日(月)
・事務局会議(市民会館)	・夕陽会函館市支部総会(市民会館大会議室)	・来賓夕陽会々長川島孝夫様 渡島支部懇親会支部長出席	・第5回本部委員会、支部 長幹事長出席	・顧問・参与会、支部長・幹 事長出席	・佐藤廣賢氏(平成13年卒・ 鱒川小勤務)ご結婚に祝意 を表す	・幹事会及び新会員・幹事懇 親会(ロイヤル柏木)	・全国支部長会議、支部長・ 幹事長出席	・夕陽会大懇親会開催(函館 国際ホテル)	・本部役員会、支部長出席	・鶴陵会渡島支部懇親会に支 部長出席	・道内支部幹事長会議、札幌 市開催・幹事長出席	・支部会報第66号発行	・事務局長会議	・加藤彬氏(昭和11年卒)瑞 宝双光章受賞に祝意を表す 斉藤幸子氏(昭和32年卒) 文部科学大臣表彰(視聴覚 功労者)に祝意を表す
10月20日(水)	30日(土)	11月2日(火)	26日(金)	12月7日(火)	8日(水)	14日(火)	15日(水)	23日(木)	平成17年 1月12日(水)	16日(日)	2月19日(土)	2月25日(金)		
・千葉喜彦氏(昭和34年卒) 市文化賞受賞に祝意を表す	・橋田恭一氏(昭和39年卒) の市教育委員就任に祝意を 表す	・石戸大機氏(昭和42年卒) の北海道教育功労者表彰受 賞に祝意を表す	・清野弘子氏(昭和39年卒) 藍綬褒章受賞に祝意を表す	・本部・渡島支部・函館市支 部代表者懇親会、支部長・ 幹事長出席	・本部役員会、支部長出席	・船矢美幸氏(昭和29年卒) 瑞宝双光章受賞に祝意を表 す	・村瀬弘枝氏(平成元年卒・ 金堀小勤務)ご結婚に祝意 を表す	・山川友洋氏(平成13年卒・ 的場中勤務)と東美夕紀氏 (平成15年卒・凌雲中勤務) ご結婚に祝意を表す	・若狭美也子氏(平成4年 卒・港中勤務)ご結婚に祝 意を表す	・第8回夕陽会音楽会に参加 及び出席	・夕陽会渡島支部「勇退者激 励感謝の会」に支部長出席	・平成十六年度「受賞祝賀 会・会員懇親会」四五三名 の出席で盛会に行われる。		

【予告】

◎平成十七年度

函館市支部総会 開催期日

- ・平成十七年四月十六日(土)・午前十時
・市民会館・大会議室
- (1) 学校幹事は必ず出席してください。
(不都合の場合の代理出席は可)
- (2) 学校幹事の他に以下の会員数の出
席を報告してください。
◇会員数九名以下の学校は、幹事の他
に一名以上
◇会員数十名以上の学校は、幹事の他
に二名以上
- (3) 平成十七年度から、旧戸井町、恵
山町、榎法華村、南茅部も函館市支
部となります。

夕陽会本部総会・大懇親会

・平成十七年六月十八日(土)
「国際ホテル」を会場に平成十七年
度『夕陽会本部総会・大懇親会』を行
う予定です。詳しい内容につきましては、
後日ご案内致します。

事務局だより

・支部会報第六十七号が出来上がりま
したのでお届けいたします。本会報
の発行に際し、ご多忙な時節にもか
かわらず、快く原稿をお寄せいた
き誠にありがとうございます。深
く感謝申し上げます。
・前納会員制度、かなり定着してい
りました。三月で勇退される会員
の方にも、便利なこの制度のご活用
をお勧めいたします。
(夕陽会函館市支部幹事長 田野中 敏)